

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

(医療専門課程理学療法学科夜間部) 令和4年度													
分類			授業科目名	教員名・授業科目概要・目的	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	
○			基礎理化学	加藤 幸弘 理学療法士として29年間(総合病院で7年、一般病院で14年、診療所で8年)の実務経験を活かした授業で、理学療法士に特に必要となる力学について物理学的な基礎知識から学び、それをどのように用いて人体の運動を理解するのかを手順に従って学ぶ。	1前	30	2	○			○		
○			コミュニケーション論	吉川 将太 医療従事者のコミュニケーションは、チーム医療の要であり、患者とのコミュニケーションは、治療効果や患者満足度に大きな影響を与える。本科目では、理学療法士として一般病院1年と診療所10年間の実務経験を活かした授業で、コミュニケーションの基本的スキルを身につける。また傾聴の意味を理解し、医療人として必要な基本的態度を学び、コミュニケーション能力を身につける。	1前	15	1	○			○		
○			情報統計論	姉帯 飛高 理学療法士として5年間(一般病院2年、介護老人保健施設3年)の実務経験を活かした授業で、1)レントゲン、CT、MRI等より得られた画像から必要な情報を抽出し、解釈・応用する方法を実践的に学習する。2)研究方法や統計データの取り扱いについて学び、文献検索と客観的・批判的精読を通じて情報を取捨選択する過程を学習する。3)文献抄読会を行い、パソコンの基本操作やプレゼンテーションの基礎を理解する。	1通	30	2	○			○		
○			人間発達学	小松 昌久 理学療法士として肢体不自由児施設22年、小児専門病院3年の実務経験を活かした授業で、胎児期から老年期に至る人間の発達を通し、各発達段階における心身の成長および運動獲得について学ぶ。	1後	45	3	○			○		
○			基礎運動学	加藤 幸弘 理学療法士として29年間(総合病院で7年、一般病院で14年、診療所で8年)の実務経験を活かした授業で、筋骨格・関節運動学などの基礎的知識から、人の基本的動作の構成、歩行、運動を継続する仕組みについて解剖学、生理学、その他の基礎医学での知識を統合して学習を進めていく。主に動作での関節運動の記載方法から支持基底面や重心の関係、力学的な分析を行う。	1前	30	1		○		○		
○			生活環境論	植竹 教嗣 理学療法士として6年間(一般病院で3年、介護老人保健施設で3年)の実務経験を活かした授業であり、障害の有無に関わらず人が生きていく上で最も身近で、基本的に存在する生活環境を学ぶ。障害者や高齢者が、回復・維持された身体機能を有効に活用するためには、社会的環境に広く目を向けることは重要である。生活環境論では、そのための基本的な理念と知識について学習する。	1後	60	4	○			○		
○			人体構造機能学Ⅱ	姉帯 飛高 理学療法士として5年間(一般病院2年、介護老人保健施設3年)の実務経験を活かした授業で、運動器(骨・関節・靭帯・骨格筋)それぞれの解剖学的特徴から、それらの機能を理解する。	1前	30	2	○			○		

○		物理療法学	江原 裕作 理学療法士として総合病院15年間の実務経験を活かした授業で、基本的な物理刺激が、物理療法として人体にどのように働くのかを理解し、各治療法の適応・禁忌・注意点を理解する。 また、各治療機器を用いて実習を行い、治療を行えるようにする。	2 前	60	2		○	○					
○		義肢・装具学	吉川 将太 義肢が十分な機能を発揮し、患者のADLが向上するためには、各職種間のコミュニケーションが重要であることは言うまでもない。理学療法士として一般病院1年と診療所10年間の実務経験を活かした授業で、様々な義肢の適応と特性、セッティングについて理解することを目標とする。装具療法の意義・目的等を学習する。上下肢、体幹装具の種類について、また適合判定・適応について学習する。	2 前	60	2		○	○					
		小児理学療法	吉原 且容/堤 俊介 理学療法士として総合病院15年間の実務経験を活かした授業で、種々の疾患の発症要因と病態を理解する。また、頻度の高い小児疾患の病態と疾患の特徴を理解し、それらに対する対応を系統的かつ全人的に学ぶ。さらに、障害を有した小児に対する医学的な評価法と理学療法の概略を学ぶ。小児期の各疾患治療・療法を通じてチーム医療の重要性を学ぶ。	2 後	60	2		○	○					
○		理学療法各論	小川 朋郁 理学療法において運動療法は重要な介入手段のひとつである。理学療法士として診療所6年の実務経験を活かした授業で、運動療法を施行するうえで必要な知識について学習する。また運動に伴う身体の変化・反応について理解し、運動療法への理解を深めることを目的とする。	2 前	30	1		○	○					
○		理学療法技術論	茂木 真 理学療法士として老人デイケア8年間の実務経験を活かした授業で、理学療法士として必要とされる知識を総合的に学習し、これまで学習した知識の整理、応用について学習する。	3 通	270	9		○	○					
○		地域理学療法学	吉川 将太 理学療法士として一般病院1年と診療所10年間の実務経験を活かした授業で、地域リハビリテーションの理念、歴史を理解し、介護保険法や関連法規を学び、地域で実践されているサービスについての理解を深めていく。 グループワークを通して、模擬症例に対する介護保険サービスの利用を考え、知識を整理する。	2 通	90	3		○	○					
○		臨床実習Ⅰ	植竹 教嗣 6年間（一般病院で3年、介護老人保健施設で3年）の実務経験の理学療法士を中心に、関連施設の臨床現場を見学し、医療人・社会人としての意識を高め、自己が目指す理学療法士という職業を再確認する。今後の学習の必要性を認識し、学習意欲を高める動機づけにする。また、患者や職員と関わることで、コミュニケーション能力を高める。	1 後	45	1		○	○	○				
○		臨床実習Ⅱ	植竹 教嗣 6年間（一般病院で3年、介護老人保健施設で3年）の実務経験の理学療法士を中心に、地域に在住し生活をしている障害者、高齢者に対して理学療法の知識・技術がどのように活用できるかを、保健医療福祉における実施機関・施設（訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション等）での見学実習を通して学ぶ。	2 後	45	1		○	○	○				

○		臨床実習Ⅲ	植竹 教嗣 6年間(一般病院で3年、介護老人保健施設で3年)の実務経験の理学療法士を中心に、医療人としての資質の育成を育み、理学療法士としての業務や役割について理解を深める。また実習施設の機能や特徴を把握し、対象となる方を取り巻く、人との関わりについて考える。様々な対象となる方を通じて基本的な検査項目を臨床実習指導者のもと見学・模倣することで知識や技術の研鑽を行うことを目的とする。	3 前	270	6			○	○	○
○		臨床実習Ⅳ	植竹 教嗣 6年間(一般病院で3年、介護老人保健施設で3年)の実務経験の理学療法士を中心に、臨床実習Ⅲで学んだ知識や基本的な検査項目の見学・模倣に加え、臨床実習指導者のもと対象となる方への基本的な検査項目の実施及び治療を見学し、医療専門職としての責任ある態度や行動を学ぶ。対象となる方に応じた評価を見学・模倣・実施すること及び基本的な理学療法手段の見学を目的とする。	3 前	270	6			○	○	○
○		臨床実習Ⅴ	植竹 教嗣 6年間(一般病院で3年、介護老人保健施設で3年)の実務経験の理学療法士を中心に、臨床実習Ⅲ・Ⅳで体験した理学療法評価の実施及び基本的な理学療法手段の見学に加え、対象となる方に応じた基本的な理学療法手段を模倣することでさらに自己研鑽することを目的とする。	3 後	315	7			○	○	○
合計				41科目	3030時間						